

小学校理科教育パワーアップ事業

テーマ

「進んで教材や他者とつながり、問い続ける子どもの育成」

鳥取市立久松小学校

○取組の目的と概要

- ・公開授業や教職員研修の実施、さらには教育研究団体や中学校区小中連携組織との連携を通して、鳥取県東部地域の小学校理科における指導者の授業力向上を図る。
- ・理科教育を充実させることによって、本校児童の思考力・判断力・表現力を高め、理科好きな児童の育成を図る。

○取組の具体

1 外部講師誘致等による研修の充実



【外部講師による模擬授業の様子】

- ・授業研究会を3学年6クラス開催。県教育委員会東部教育局指導主事を招聘し指導していただいた。
- ・日本体育大学児童スポーツ教育学部教授 角屋重樹先生を招聘し、公開授業実施。指導助言をもとに理論研修を深めた。
- ・夏季休業中、川崎市立東菅小学校の校長先生方を招聘し、模擬授業等の理論研修を行った。

2 日々の授業実践

(1) 児童と共につくる単元構想図

4年 単元名 水のゆくえ 単元構想図

- ①児童に問い続ける姿を促すため、単元導入時に知的好奇心をかきたてるような自由試行の時間を設定。
- ②そこから生まれた児童の気づきや疑問等を出し合わせる。
- ③単元計画を構想図として見える化し、学習を進める中で見通しや学習の方向を確認した。



(2) 協働的問題解決の場の設定と思考の術の獲得



協働的問題解決の場を意図的に設定する

- ・学びの場の設定【個→集団→個（変容）】
- ・学び方を示す【きょうしょう学び】
- ・単元構想図の作成

思考の術を示す

児童に教師が示す【話型】→児童自身が活用する

協働的問題解決力の育成

これからの社会を生きる子どもに必要な資質・能力【未来のなりたい自分】

「協働的問題解決」・・・他者と協働し、多角的な見方・考え方を共有しながら、問題を解決する能力。

①個の考えを持って授業に参画→②他者との関わり→③個の考えの変容といった一連の学習の流れ

「思考の術」・・・既習事項との関係づけ・事象や他者の考えと比べる等、個々の児童の考えの深まりや広がりを促すための視点。

○取組の成果

- ・思考の術を児童が活用することで、子どもたちが理科の見方や考え方を働かせ、自然事象を見通しを持って問題解決する姿が増えてきている。
- ・他の教科や領域でも活用することで、汎用的な能力が身につけてきている。

○課題と今後の方向性

本校の積み上げてきた実践を公開学習や研究大会の他に地域の学校へあまり広げることができず、成果を十分還元できていない。今後、中学校区の小学校を中心に広げていくよう考えている。